

令和元年度 第3回静岡市文化振興審議会議事録

- 1 日 時 令和元年 11 月 21 日（木） 14 時～16 時 30 分
- 2 場 所 静岡市葵消防署 6 階 審査会室 2
- 3 出席者 (委 員)
平野会長、川内委員、河村委員、久保田委員、是永委員、田中委員、
中村委員、
(市当局)
中島まちは劇場推進監、萩原まちは劇場推進課課長補佐
草分参与兼文化振興課長、小山課長補佐兼文化交流係長
仲澤施設管理係長、竹林主任主事、鈴木主任主事
- 4 傍聴者 2 人
- 5 会議内容 1 開 会
2 議題
(1) 静岡市文化振興計画 前期実施計画
平成 30 年度評価総括書について
(2) 静岡市文化振興計画 中間年次評価について
(3) 静岡市民文化会館の再整備について
3 事務連絡

【議事録】

(平野会長)

審議の開始にあたりまして、本日の審議会は議事録についても一般に公開することとなっており、議事録の作成にあたっては、会長や委員が内容について確認し、署名することとなっています。署名者として二人必要ということですので、私のほかにお一人お願いしたいのですが、今回は中村委員にお願いしたいと思います。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

議題 1 「静岡市文化振興計画前期実施計画平成 30 年度評価総括書について」事務局より説明をお願いします。

(事務局 小山)

<静岡市文化振興計画前期実施計画平成 30 年度評価総括書を説明>

(平野会長)

前回いただいた様々な意見は事務局で一通り反映させていただいております。その後、事前にご覧いただきご意見は無いようでしたが、どうしてもというご意見がありましたらこの場で受けたいと思います。

(川内委員)

言葉の表現で疑問に思う事があります。P3 創造的にぎわいづくり (2) 改善すべき点③プラットホームですが「ふ」の「フォーム」ではないでしょうか。プラットホームというと駅のプラットホームなのではないかと思います。また、「ネット上のリアルな場＝歴史文化施設、図書館の役割か」となっていますが「歴史文化施設、図書館の役割その両方」としたほうが分かりやすいのではないのでしょうか。

色々なものが集まる集合の場という事でプラットフォームと。また、後の部分については、ネット上に集まる場所とリアルに交流したり手に取って触れることの方が大事だということをお願いしたいのだと思います。「ネット上とリアルな場所両方」両方と入れておけばよりわかりやすいかと思います。

全体評価の中で「継続の中から新規性が生れ落ちることもあり、継続性はそれ以上に大事である」の「それ以上」が引っかかりました。何かをやるなら何かをあきらめなければならない、そういう何かを育てたいという判断の中で色々なことに配慮しながらこういう文章を作ったと思います。スクラップアンドビルトであまり必要でないのならこのままでもいいかと思いますが、予算の中で何かを止めなければいけないということがあり、何かを積極的にやらなければならないのであれば。

新規のものを抑えるというか、継続性が大事で公益性を大事にすることにお金を落とすなど、これから地方は大変になってくるとは思いますが、チャレンジな部分を自主的にやるというようなことも考えつつ言うと、継続性はそれ以上に大事であるという「それ以上」の言葉の意味が予想以上に重いのかなと思いました。もちろん、継続性の大事さをいうのは大事ですが、非常に保守的な。チャレンジの部分を持たせるのなら継続性はもちろん大事です。例えば古典芸能は継続性の塊でとても大事です。「それ以上」というのはとても気になりました。

(平野会長)

表現を「同様に」とかにした方がいいかもしれないですね。並列にしておくのがいいですね。他の委員の皆さんはいかがでしょう。

(河村委員)

「同様に」と置き換えることに、私は賛成です。

(久保田委員)

その前の行から「新規性のある取り組みは確かに大切ではあるが継続の中から新規性が生れ落ちることもあり」ということで継続という言葉がここに出てきます。

(中島推進監)

並べた方がいいかもしれませんね。「継続性と新規性それぞれが大切である」ともう一度言ったら

おさまりがつくでしょうか。

(川内委員)

文章の書き方がどうかはわかりませんが、両方大事だよというのが伝わればいいと思います。「それ以上」という言葉が引っかかったので。

(久保田委員)

7行目までの基準に達していると考えるところまでは、継続性が大事だよということを主に述べていて、8行目からの「反面…」から新規性のことを述べていると考えて良いでしょうか。

7行目までは継続しているよ、新規も大切だが継続も大事だよとたっていて、その下に「反面、新しい魅力創造や人材発掘・新規顧客の発掘」という事で、これが新しい何かを生み出すことになるかと述べているということでしょうか

(川内委員)

ここで「反面」という言葉を持ってくるのがいいかどうか。そこは整理して、「反面」の接続詞でつながない方がいいのではないのでしょうか。

(事務局 草分)

最初に意見を出していただいたときに、本当の新規から生まれるもの・継続性の中から生まれるものもあるということで、最初に書いたときには「それ以上」と大きく扱ってしまったと思います。継続と新規どちらかに優越があるという意味での使い方ではなく、そこがそのように読み取られてしまうという事があれば、継続と新規どちらも大切ですよという表現にしてまとめるという事でよろしいでしょうか。

(平野会長)

ご指摘いただいた件は今すぐ整理するのは難しいので、一旦預らせていただいて、後ほど整理させていただきたいと思います。「反面」というところをもう一度整理して、ご提案したいと思います。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。ご指摘いただいた部分を事務局と再考させていただき修正するという事とします。

それでは2つ目の議題に入らせていただきます。「静岡市文化振興計画 中間評価」について事務局より説明をお願いします。

(事務局 小山)

<静岡市文化振興計画 中間評価について説明>

(平野会長)

2枚目の資料の視点1・2・3に書かれていることが中間の時点で反映されているかどうか。そこ

を見つつ、事業が新しく入れ替わったりもしていますので、左側の視点が影響を受けているかそれも踏まえて評価していただきたいと思います。

(河村委員)

「創造的ひとづくり」のところで、会議でも何度か話題になった「社会包摂」の概念についてですが、言葉は難しかったりあまり一般のほうまでは浸透していないということもあります。言葉としては色々議論があったと思いますが、概念というのは皆さん分かっていると思います。例えば「子どもたち」という言葉は入っているけれども、社会包摂の部分もフォローするような人づくりの取組も入れれば、また広がるのかなと思います。特に2020年のオリンピックではパラリンピックもかなりメディアに取り上げられていて社会的にも注目されているのでそこを入れたら厚くなるかなと思います。

(平野会長)

今の河村委員ご指摘についていかがでしょうか。確かに障がい者にかかる法律もできましたし、オリパラを迎え、ますます社会も大きく視点を向けているところがあります。

(事務局 草分)

中間評価の結果として、この施策の中で見直しが必要であれば議論をいただきたく、文化振興計画の中で載せている主な取組の中で補強すべき点があればということです。主な取組は、文化振興計画の冊子そのものに記載させていただいています。P21になります。

(久保田委員)

「社会包摂」に関しては、最終的には中間報告に記載されるかどうか。

(平野会長)

「社会包摂」という言葉はまだやや難解であるというところで、ここでは採用はしてはおりません。

(事務局 草分)

河村委員も先ほどおっしゃっていただいたように、社会包摂を表す内容を取り込むということです。

(久保田委員)

創造的の魅力づくりが一文化的なハード的なものを表していて、右側の主要事業に結んでいるものが多い。そして創造的人づくりでは、人に対する施策が多いとのことですが、実際の「ひとづくりの部分に、例えば駿府城について子どもたちにこういう事を教えたとかそういう繋がりが本来はいただきたい気がしています。もともとそうだったのですが「ひとづくり」のところに「お茶の美味しい入れ方教室の開催」とか「地場産品体験学習事業」などありますが、それよりも静岡独自のものがでてくれたほうがいいのではと思います。

全体としての文化的創造する人を作るよというより、静岡ならではの、静岡はこういう場所だったよというのを踏まえて子どもたちに伝えていきたい。例えば大道芸がこれだけやってきてこういうように育ってほしいとか。そういうものが上 2 つとリンクするのかなと、それで事業があるのかなと思います。舞台芸術における育成事業とかが入っていますが。

(平野会長)

今のご指摘は資料の左側の部分でいいでしょうか。

(久保田委員)

はい。左側の部分「文化財等の貴重な地域資源を体験し学ぶ機会を充実させ、本市の魅力を伝えられる人材を育成します」と書いてありますが、実際、主要事業としてなってきた時にあまりないかと思っています。実は昨日、商工会議所で議論になったんですが、久能山東照宮がこうであるとか駿府城がどうだということをやっているんですが、それを子どもたちに伝えるとといったときに、教育機関の壁が高くてそういった授業はしてもらえないんだよという意見が出ていました。そういったことができればいいのですが。

(事務局 草分)

学校の中で地域の歴史を学ぶ機会はあると思います。先日新聞で北沼上小学校で駿府城の石を切り出した場所がここだよということ子どもたちが学び、地域の人に発表したという記事がありました。学び方はあるのですが、今おっしゃっていた学校の壁が高いというのは外から働きかけても学校が受け入れをしてくれないという事でしょうか。

(久保田委員)

一人ひとり個々の先生方をお願いして取り上げていただいた成功事例はあると思います。でも、静岡市全体として静岡商工会議所をお願いをしたけれど、それを市全体に広げてくれませんかというのはなかなかそのような動きは難しいというのが商工会議所サイドの話です。

聖一国師の漫画を作って、それを配ったりもしているのですが、あと他には、今川さんの漫画を作って配ろうという話もあります。それをどのように取り上げていただけるのか。

(中島推進監)

学校教育と社会教育と大きく 2 つに分かれているが、学校教育というのはカリキュラムの中で厳しいという話があると思います。一方ちょっと延びていますが、歴文化施設を今造っていますが、社会教育施設なのでまさにそのような機能を担っていくところできてきています。学校単位でそこを利用させていただくなど、そういう活動をしていく。完成すればこの状況が少し変わるのかもしれないと思います。

(久保田委員)

それはすごく期待します。

(平野会長)

今の部分は、創造的・魅力づくりの右側の歴史文化施設の部分ですね。

(中島推進監)

まさにそのような機能を担っていると思います。

(事務局 草分)

まだ建設事業となっておりますが、そのカリキュラムが動き始めた時には、その上の主要事業に上手く入ってくるようになってくれば良いというイメージです。

(中島推進監)

ちなみに、プレ事業としてすでにスタッフもいるわけですから、先駆けの部分も建設事業に伴って始まっています。

(田中委員)

先ほど、北沼上小学校の話がありましたが、それに参加してきました。北沼上自体が石を掘り出した重要な産地です。それに小学校が地域教育として取り組み、それに地域の人が竜爪フェスタと名付けて発表が行われました。ある小学校区の地域おこしのようなものです。それが駿府城の刻印石に繋がるという、自然発生的にいい形でできたと思います。私たちの美術館でもそうですが、学校教育の中でミュージアム教室に来てくださいと言ってもなかなかうまくいかない。学校教育の年間プログラム、カリキュラムがありますから、そこに外部から無理やりねじ込むのは難しいことです。学校から、例えば地域活動みたいな、あるいは先生からでもいいのですが、そういった自発的な試みがあれば、そこにかみ合うとかあると思います。市内横断的ということのは、なかなか難しいですね。

(久保田委員)

飛騨の高山とか20何年前から観光都市宣言をしているようなところは、子どもたちに歴史を教えています。そういった子どもたちが50歳60歳になっていて、またその子どもたちに歴史を教えるというようになっていきます。そういったことを静岡は今までやってこなかった。静岡はどういうところだとか、家康公がどこに眠っているだとか、あまりやらないできたように思います。今やって、すぐにできるものではありませんが、まさに創造的・ひとづくりの部分でいうと、そのようなことをやっていけばいいかと思います。岡崎あたりがそうなんです、家康公については、静岡の人よりも岡崎の人のほうが良く知っているのではないかと感じます。そういうことをやっていただけると特に良いのではないかと思います。

(事務局 草分)

全校一律でということがなかなか難しい部分もあります。しばらく前になりますが、駿府城周辺の小学校の子どもたちがボランティアガイドをやるということで、歴史を学んだという事例があります。自分の身近にある部分からスタートしてもらえると、入り口としてはいいのではと思います。そういったきっかけなど、学校の先生たちもネタ探しをしていると思います。新年度のカリキュラムが固まるのが前年度の1月くらいなので、その頃の校長先生が集まる会議でこんなご提案ができるということは紹介することができます。またそういった時には入口として文化振興課にもお声がけいただければと思います。

(久保田委員)

人物でいうと、家康公、今川義元公、聖一国師ぐらいのところを確実におさえておいた方がいいのではと思います。そうすると、子どもたちは郷土で有名な人と感じてくれると思います。逆にいうと、岡崎は家康公しかないのでは、必ずそこに向かうんですね。

(田中委員)

会津もそうですね。「ならぬものはならぬ」という教育とか小さいころからやっています。そういうことは静岡は希薄だったのかもしれない。静岡に来て10年ですが、他の地域に比べると熱さがないというか、とても淡泊に感じます。

(平野会長)

つまり、歴史文化施設では、今まであまりできなかったことを期待するということでしょうか。今までの先人たちの文化施設への取組という中で、最後に全体を俯瞰する計画が立てられているという意味では、非常に期待するとか面白い立ち位置にあると思います。ここの主要事業の中に、歴史文化施設建設事業の創造的人づくりの対になっているところに、何か事業を入れるという判断はできないですね。

(事務局 草分)

事業すべてを把握しているわけではないので、担当部分に確認をして、それが載せられるのであればということです。事業については毎年変遷もありますので、新たな事業が発生した時に目に見える形にしておくことは可能です。

(平野会長)

そういった視点を持ち続けておくということは、重要なことだと思います。

(川内委員)

子どもへの伝承事業ということが明確にわかるようなものが1つあってもいいのではと思います。伝えていかなければなくなってしまうものとか核となるもので引き継いでいくものという中では、子

どもは大事です。インターネット社会の中でも、アナログのものを残しておいて役立つものがあるでしょう。意識的にやっていかなくてはならないというところでは、伝承というか伝統文化という事だけではなくあると思います。

たまたま、静岡県の唱歌を歌うという文化プログラムがあって、個人的な興味でサポートしているのですが、静岡県の唱歌が無くなってしまおうという中でやっています。そういう事があればいいと思います。創造的ひとづくりと創造的の魅力づくりと創造的にぎわいづくりは、すごくリンクしています。三段論法的に言うと、上から1・2・3になっているんですね。一生懸命に当事者間でやっていることが創造的の魅力づくりになって、その結果として人が集まってくるというのが一番理想であり大事だと思います。ただ表に連れ出そうということでは、本物感がなくなってきます。一生懸命やっている人や理解のあるところには魅力があって人も集まるといえるものがあると思います。もちろん仕掛けが必要だとは思いますが。

先日、新潟に行ってきました。新潟と比較すると、静岡の決定的な弱さとして家康公以降止まっていることだと思いました。明治以降からその間に、あまり引き継ぐメジャーというような名を成した人とか、みんなで引き継いでいこうという人がいないと感じました。だからといって卑下することはありません。新潟には全国区の文化人が多いので、そういった人たちを集めた施設を作っています。

「にいがた文化の記憶館」といいますが、それがうらやましいと思った次第です。そうすると、私たちはシンプルに家康、今川、聖一国師を表に出してやっていけばいいのかということもありますが、それは一つの手段として大事だし、小さなころからやっていくのはいいことだと思います。静岡市の特徴というか、明治以降にみんなが誰と言ったときに、言うべき人が少ないなと思いました。

(平野会長)

歴史文化施設といった意味では、もちろん、家康や今川、東海道などあると思いますが、当然歴史はいろいろあるので、これからは色々な施策が立てられるのではないかと思います。その中心として家康、今川、聖一国師になるかもしれませんが、あまり他都市と比較しすぎるとまた道に迷ってしまうかもしれません。

(川内委員)

新潟市に人をとりあげる施設があり、非常にわかりやすく功績が紹介されていたり、展示も上手くできていたので、そういう人がいるということが率直に言ってもうらやましく、また施設がよくできているなと感じました。

(平野会長)

静岡の歴史文化施設の役割の1つは、現に知られている人を伝えていくだけではなく、埋もれてしまっている歴史上の人物を掘り起こしていくというそういう役目も一方であると思います。時間はかかっても、明日できることだけでなく、未来に向けて何ができるかということから、この施設は建たなくてははいけないと思います。

(川内委員)

昨日、市民文化会館でやったワークショップがどんな感じなのか覗きに行ってきました。今日の3番目の議題になっていますが、1つ印象的だったことは、文化を作るはハコではなく人だよということです。相当インパクトがありました。ハコは環境づくりとして大事ではあるが、ハコだけのことを考えるのではないよということを言っていました。ベースは人であるということが話し合われていました。だから創造的人づくりというのは、上位項目にこなくてはいけないと思いますし、そのために当事者が人を育てたり、家康公など子どもたちに引き継ぐことはそのベースになっていくと思います。

(平野会長)

この視点の1. 2. 3というのは、特にプライオリティがあるというわけではないですよ。そういう見方もできれば、チャンネルを変えてということで、相互関係にあると思います。その中で、人づくりというのは重要だと誰もが承知していることではあります。

(久保田委員)

先ほど単純に今川、家康、聖一国師と話をしてしまったところです。静岡は他都市と比べて非常に変わっていると思うところがあります。今川は一時優勢を誇っていたところで、ぱっと桶狭間で死んでしまった。そこから悪評がある。家康は江戸時代を作った日本最大の権力者だと言われています。その後静岡で死んだにもかかわらず、大御所時代が終わったあと、静岡が顧みられなくなり市として小さくなってしまった。御三家として残らなかったという歴史があります。もう一つ言わせていただくと、徳川慶喜がここに来たのですが、それも負けて来たということなので、最後の将軍でありながらここに30年も住んだのに誰も知らなくなるという、そういう状態を繰り返してしまっている。先ほどの話でいうと、明治以降誰も出なかったということは、どちらかという徳川がここに来たからですよ。明治政府の方に行ける人間がいなかった。あるいは徳川時代にすごい人が出なかったという、家康公が最初にいたがそのあと静かになってしまったということもあると思います。ようやくここで歴史文化施設ができて検証ができて、そういう人がいたんだよね、すごかったんだよね、という話があってようやく子どもたちが気が付いてくるかなと思っています。今まではあまりそれが検証されてないところがあったと思います。すごく有名すぎてどうかとも思いますが、今やった方がいいとは思っています。

(平野会長)

人づくり、魅力づくり、にぎわいづくりがリンクしているというご指摘もいただきました。視点に分けられてはいますが。

(事務局 草分)

先ほど河村委員がおっしゃっていただいた、人づくりの視点のところに落とし込んでいく社会包摂的な概念というのが、どんな表現で入れようかと思ひまして。子どものことは少し触れられてはいるということでしたが、皆さん中でももう少し補強したい部分はどこか強く思っ

いるのか。それによって言葉を直していこうと思います。

今回議論いただいて、修正をして、それをまたご議論いただきますので。今回、言葉だけ出していただければ。

(川内委員)

概念としては、経済格差という言葉も入ってくるのでは。酷な言い方をすれば。

(中島推進監)

アートを持っているもとの力が社会的構成に入ってきて、事業としてはけっこうやっています。先日記事に取り上げていただきましたが、障害者の支援を立ち上げて障害者のチーム静岡ができました。さいたまの彩の国が先行していますが、それとは違った仕上がりของทีมができて、パラリンピックの年に公演をするというプロジェクトが始まったりしているものですから、少しそういうところを意識した主要事業を引っ張り出してくれば印象が変わるのかなと思います。下のところに入っていますが、まちは劇場のオーケストラ事業というのは、小学校や、来年はこども園のオーケストラのアウトリーチをやっていて先ほど学校教育の話が出ましたが、アウトリーチですので生のオーケストラを届けています。それと伝統芸能ですと、神楽とかのイベントをやるということは、後継者問題を解決するためにこういった事業をやっているの、そういった伝統を引き継ぐための事業とか、ソーシャルインクルージョンを目指した事業もありますので、右側の事業には次回ご提案できるという事なので、そういうことを意識しながら事業出しをしたい。

(久保田委員)

資料の1ページのところで見直しにかかわる背景にインターネットのことが書いてあります。確かにそうだと思います。ものすごい速さで進んでいるので、それにどのようについていけるかだと思います。2ページ目、3ページ目にある問題点は間違いなくそうだと思いますが、それをどのようについていけばいいのか。施策として。そのように思います。

(川内委員)

設問の前提の違いについては、どう解決したんでしたっけ。

(事務局 草分)

前回のときに、中間評価の創造的ひとづくりの評価のパーセンテージが20%下がっているというところで、質問の聞き方にも少し課題があったのではないかと。家で見るテレビなど鑑賞するものについては対象から除くという表現を設問から外すということで前回整理がされたかと思います。それによって極端に上がるかどうかということは3年後にならないとわかりませんが。インターネットが普及してきたことに対して行政側から施策として考えられるものがあるかと言ったとき、なかなか今そこには追い付いていけてないと思います。インターネットが普及してきたことを通じて、行政側が文化的施策を活用し上手く発信できているかというところはできていないのではないかと思います。

(平野会長)

表現的に難しいですね。

文化芸術を情報で支えていくというところですが、所管のデータベースがものすごい勢いでサービスが普及されています。我々もスマホ取り出してキーワードを入力し、上の3つくらいを見て納得していますが、そこでは出ない圧倒的なデータベースの整理が図書館で行われています。論文検索サイトのようなもので検索しただけでは上位には出てきません。そのものの方が価値があったり、基礎を支えるデータベースになるということが実際には起きています。

(中島推進監)

一方、静岡市全体の方向性としては、ネットとリアルということを全体的に意識していると思います。直接的にコミュニケーションが発生するようなパフォーマンスアートができてきています。今の情報の話と少しずれますが、ネット時代に文化政策をどうするかというと、リアルにその場についてやることは博物館や美術館はそうですし、大道芸は典型的ですが、そうったものを主軸にするということは、ネット時代にあっているというか。ネットとリアルという相反するもの相当意識していると思っています。

(川内委員)

相反であるようで、相反ではないということですね。

(中島推進監)

ネットだけでは困るという言い方でもいいかもしれません。

(平野会長)

他の視点ではいかがでしょうか。

事務局で補足することはありますか。

(事務局 草分)

今の時点では、どこをどうということはありますが、次回までに今おっしゃっていただいたものをこの視点と事業に整理をして、事前に皆さんにお送りし見ていただいて、次の時にご議論いただくということでよろしいでしょうか。

(平野会長)

よろしいでしょうか。現時点での資料について、ご意見がある場合なるべく早い段階でご意見をいただき、整理したものでご議論いただくことにします。ありがとうございます。

それでは3つ目の議題に入りたいと思います。「静岡市民文化会館の再整備について」事務局より説明をお願いします。

(事務局 草分)

<静岡市民文化会館の再整備について説明>

(川内委員)

昨日のワークショップに個人的に参加してきました。どういう形の意見聴取が行われているか、どんな議論が行われているのかを見に行ってきました。感想というわけではありませんが、進行役をやっているシアターワークショップの伊藤さんは、私は初めてお会いしましたが、うまく意見を引き出しているなと思いました。ワークショップに参加された方が40人くらいいて、一般公募の方もいるし、利用者の立場や文化関係、建設関係の方などいたと思います。関わり方はそれぞれ違いますが、関心のあることは間違いないという熱気を感じました。自分の関わり方によっていろんな言い方がありますが、言葉は違えど、その人たちの本質は何を言っているのか伊藤さんは知りたがっていて、その意見集約の中で反映させていきたいということが非常に伝わってきました。うまく聞いていたし、参加している方も素朴な言い方であったり、専門的な言い方であったりしましたが、自分の言葉で言っていたなと思いました。中身に関しては、資料に書いてある通りです。3回目のワークショップということで、主要的なことをやっていたと思います。夢を語るだけではできないということです。その1つの例が、パイプオルガンの話だったかなと思います。音楽をやっている人間ですと、パイプオルガンがあるといいねという話になります。あれは、メンテナンスから大変です。でもそれがあることによって、他の施設が犠牲になったり固定化することもあります。たぶん、AOIがあるからいいだろうというような話になっていましたが。

現実的な話もしており、いいところと悪いところ、大ホール・中ホール・小ホール、創造的分野というところをどう進めていくかを話されていました。皆さん、規模がほしいなど関心があるようなことに対して残さなければいけない部分、変えなければならない部分、それぞれに対する残したい理由、変えなければならない理由ということを考えながら議論が進められていました。

地方にしては評判がいいらしいです。場所も広くて回る舞台があるなど。再整備のイメージというところでシアターワークショップは設計もできる会社です。設計は入札で決まるとは思いますが、市民の意見や自治体の意見をよくやっているなと思いました。安心・安全の改修ならこの程度の改修などわかりやすく、残すものと変えるところの見極めを考え、お金や休館期間との兼ね合いの中で、皆さんで落としどころを見つけたと思います。大ホールは音響がいいですし、ある意味、欠けているところを部分的直せば相当いいのではないかと。お金をどこに使うかという落とし方の範囲だと思いました。皆さんの意見を上手く引き出していました。

(平野会長)

バイアスがかかるわけでもなく、ということですね。

(川内委員)

伊藤さんが誘導しているわけでもないし、参加者がそれぞれの立場で意見を出されていました。

(平野会長)

今回、わかりやすい提案であって、どのくらい費用がかかるのか、どのくらい休館しなければならないのかの情報がわかりやすくなっていました。果たして7年間も休館することで我々が耐えられるのかということですね。

(久保田委員)

ホテル業界としては、すさまじい空白となります。例えば、グランシップが例の問題で1年程休館した時、相当な痛手がありました。そういったものが他都市に移ります。そうすると、市内の分が下がるので、7年間というのと相当です。3年でも長いという思いもあります。直さなくてもいいのではと思うほどです。

今の市民文化会館の使い方として、卒業式のような式典にすごく使われています。それがどこかに移るだけでもずいぶん変わってしまいます。そこにはあまり気づいてなく、なくてもいいだろうと思っていると思いますが、それによっても稼働率が上がっていますので、そのシーズンは厳しくなりますね。

(平野会長)

メモリアルな場所ですからね。

(久保田委員)

中ホールを動かしておいて大ホールのみを改修し、その後ひっくり返すという、そういったことをお願いしたいくらいです。

(平野会長)

皆さんから、お気づきの点はありますか。

(久保田委員)

静岡市民文化会館と言っていますが、海外の人からすると、市民文化会館は、他都市にもいろいろあるので、すべてチェーンかというように感じるようです。横のつながりがあるのかとか言われています。その時に、そこが三の丸、二の丸であるのなら、駿府城三の丸ホールと言うだけでイメージが違うと思います。外から来た人が素敵なホールではないかと思ったりするのではと思っています。

(中島推進監)

市民文化会館というのも理由があるようで、文化という名前を付けるとお金が出たということです。すごくシンプルな理由ですが。

(田中委員)

同じ財団の仲間たちが指定管理で運営していますが、施設的にはアウトですね。配管や空調がボロボロだそうです。全面的にやり変えないと行かないです。お金のことで言えば、この際建て替えた方がと思いますが、この金額だと高めではないかと。たまたま私の音楽関係の知り合いが関わった堺市では、古い市民文化会館を完全に改築しました。あそこは歴史もあるところですが、名前はフェニーチェとしています。フェニーチェはフェニックス 不死鳥から来ています。全く新しくなりました。総事業費は170～180億くらいでできたんですよ。

(中島推進監)

更地ですか。解体費込みですか。

(田中委員)

解体費込みです。大きな文化会館で、私が子どものころ歌を歌ったり、解散したドリフターズが来たとかいうこともありました。東京あたりの業者に頼むとどうしても高めになりますね。地域差があります。これは、少し余分を見てやっているのではないかと思います。堺市は完全に建て替えて、この秋から稼働しました。視察とかしたら、すごく参考になると思います。大ホールは興行的なもので市民に合うように作っています。改修となると、時間とお金をかけた割にはしんどいですね。

(中島推進監)

逆に、うまくやった例もあります。どういうデザインができるかという話になります。

(田中委員)

建築家の中島さんですから、そこはどうにかなると思います。

(平野会長)

いずれにしろ、この休館の6年というのは厳しいですね。

(中島推進監)

工期的には、相当シビアにやるように話をして、詰めさせています。

(川内委員)

今、トイレの男女比はどうなっていますか。基本的に女性を多くしてあるんですよ。

(中島推進監)

でも、圧倒的に足りないですよ。宝塚の時に見に行ったんですよ。大変ことになっていました。ただ、あそこは大ホールだけではなくて真ん中のトイレも誘導していますので、そういう意味では逃げ道があります。単独ホールではないので逃げ道があるからいいのですが。宝塚は2,000人のほとんどが女性のお客様ですよ。そうすると、一番負荷がかかります。休憩時間は20分ですので、大変なこと

ですね。

(久保田委員)

広場のイベント化というのは、これは静岡まつりとしてはすごく興味があって、そういうものを作れるのであれば、そちらの方にまつり全体の広場をこうするとか、お城の中の再整備も関係してきます。今までは、ちょっとずつ狭くなってきていたので、その逃げ場として使えるのであれば最高だなという話があります。

(中島推進監)

検討のところの中身の説明をさせていただきます。5. 6. 7. 8と4つのスライドがあります。大ホール、中ホールはそのままズバリです。次に創造支援というわかりにくい言葉を使っています。文化会館が40年前に建ったときは芸術基本法も違う法律だったし、劇場法もなかったし、先ほどの障がい者の法律もなかったわけです。一番公共ホールに求められているのはクリエイティブであり、まさにここでいうと創造という部分が必要であるのですが、残念ながらその部分が当時の考えにはありませんでした。もちろん新築でしたら当たり前ですが、改修においてもどのくらいの創造支援というか、それがどういうものなのかの議論も必要になります。例えば図書館という議論もあるだろうし、個室・練習室という議論もあるだろうし、レジデンスという話もあるかもしれません。それをどこまで突っ込めるかということをごここでは聞いているわけです。施設の中でいったら、大ホールと中ホールの真ん中のところをどう改造していくのが肝になっていくというように考えているのがこの資料です。また、展示スペースが必要であるという話もちろん出ていて、それをうまく重複的に使える方法はないかとか考えたのがこの部分です。これは、改修でも新築でも肝になる部分です。

また、久保田委員からお話いただいた広場についてです。今、レンガに広場になっていますが、使っているようで使っていない。会館当時のいきさつもあるようですが、今となっては、まちづくりの視点から入ったというのは、三の丸と話が出ましたが、二の丸と三の丸は当然一体でイメージ的にも使い方も一体となった方がいいと思います。では広場の機能はどのようにするか。表面的な話ですが、極端な話、芝生にするのがいいのか、イベントに特化したものにした方がいいのか出てくると思います。他には、日影が欲しいとかいろいろなことがあるかもしれませんが、あそこを日常的に人が集まる空間、ないしは公園的空間と昨日はズバリ出ていましたが、そういうまちづくり、ランドスケープの視点でイベント空間、防災的な空間としてとなるかもしれません。そしてどのようにしつらえを直したら、あの敷地全体が、さらには駿府城公園、歴史文化施設、まちへつながるお堀を空間としてどうしたらいいかということが入ってくる。今ある2,000人と千何百人のホールだけを改修しよう、ないしは新築しようということで、少し広げています。今必要な公共ホールとは何かということを考えているということです。

(川内委員)

創造支援の場という話が出ましたが、ハード面、ソフト面などいろいろな仕掛けや仕組みが考えられると思います。さっき文化振興計画にあったプラットフォームの場所、リアルな部分に当てはまるか

などと思います。昨日聞いた中で印象的だった言葉は、「用もないのに来たい場所にする」という言葉でした。創造的支援の中で、人がある意味集まって何かが生まれるというスペースであり、若干の仕掛けづくりとなる可能性の大きさは感じました。

(中島推進監)

今、絶対にやらなくてはいけないことですが、いろいろなマーケット調査をすると、2,000席という大きさが必要という結果がでてきています。これはやはり静岡市としてその規模のホールを持っていてはいけないだろうという話があります。それと、バリアフリーです。あの当時、そこそこやっているけれど足りないです。安全性はもちろんなので、耐震、天井の問題、これはマストです。そして、座席のピッチが昔のサイズなので、広げなくてはならない。それからトイレの問題。あと、舞台まわりの設備関係の更新など、この辺りはマストになります。それをやった上でさらにということです。

(川内委員)

大ホールのことですが、評価が分かれていたような気がします。音響の部分で良いと言った人もいましたし、悪いと言った人もいたと思います。そのところに客観的なところを言える立場ではありませんが、ステークホルダーにも聞いた中で音響部分の大ホールの評価は行政としてどう把握しているのでしょうか。

(中島推進監)

音響設計は随分進歩します。40年前はカンと経験でやっていました。要するに、音を線で描いて、どう跳ね返ってとやっていたようですが、今はシュミレーターをかけます。それと、今回、天井を外して張り替えます。椅子も新しくします。椅子は音響にとっても重要です。2,000人のホールに1,000人入って演奏した時と、2,000人入って演奏した時とで音が変わってしまっているのはいけないので、人間とだいたい同じ吸音量をもった椅子が設計されているというわけです。そういう意味で、椅子によっても音響は変わりますし、一番大きいのは断面検証です。断面が変わりますので、全く新しく音響設計をし直すと考えていただければいいと思いますし、確実に向上します。今の評価ですと良い悪いがありますが、もう一度きちんと設計しますので、少なくとも今思っているよりは良くするということです。それはお金に関係なく、設計上の話です。

(平野会長)

再整備のイメージでいうと、座席の大きさが△になっています。

(中島推進監)

座席のピッチになります。客席の大きさですと、Bは今の標準、新築になると今のトップクラスとなります。2センチとか3センチの話ではありますが、それは全体にすると大きな話だし体感できます。飛行機でもピッチでみんな選んでいますから。

今日はお見えになっていませんが、前回、佐々木先生が京都のロームシアターの話を出していまし

た。前からの建築を残す改修でという話でした。あそこは創造支援とは違うというよりも、ツタヤとかを入れているからです。人が集まる施設という選択を京都市はしたということです。いろんな選択肢があります。

(久保田委員)

先ほどの音響の話ではありませんが、グランシップの音響が天井が高いということで失われてしまった部分があります。あれはデザイン重視でいったということです。

(中島推進監)

まだ、完全に設計していませんが、ホールには額縁があって日本は横に長いとか、海外は縦に長いというのがありますが、額縁の音の出口によって音響が決まってきます。そこから変えていきますし、その音響板をどうするかはこれからになりますが、総合的なものでやっていきます。

(久保田委員)

AOIでジャズのコンサートをやったことがあります。ドラムを入れると響きすぎてどうしようもないという話があります。基本的には静かな音楽をやる場所なので。ドラムを入れるとどうなるか聞いてみたら、こういう設計書があるので読んでみてくださいと言われ、分厚い設計書を渡されました。見てみたら、音響を抑える防止板が設計書についていました。でも結局、実行されなかったようです。お金がかかるから作られなかったようです。

(中島推進監)

残響時間を調整するものですね。そういった装置をいれているところもあります。

(久保田委員)

これをお願いしたいと言ったら、もう一度出てきて、これはありませんと言われまして。

(中島推進監)

タペストリーみたいな吸音材のようなものですね。

(久保田委員)

最終的にはイベント業者に頼んでお願いしたところですよ。

(中島推進監)

吸音材を入れるしかないですね。

残響をどこに合わせるかというのは悩みどころです。あそこでは言葉が重なってしまうので、残響時間が長いと、何を言っているのかわからなくなってしまう。「あいうえお」と言ったときに「あ」と「い」が重なってしまいます。

(久保田委員)

前の音が後ろの音とくっついてしまいます。ドラムでも、1つ目の音と2つ目の音がくっついて、全部一緒になってしまいます。

(中島推進監)

ジャズですと、相当、音を吸ってやらないとならない。

(久保田委員)

ぜひ、そういった部分も考えていただきたい。

(中島推進監)

大ホールですと、どうしても収容の部分も取ってしまいます。それを振り切ったのがAOIです。

(田中委員)

すべての要素を満たすというのは難しいですね。

(中島推進監)

それは、ありえないですね。可変性装置というのは一つの答えではありますが、あれもいいところと悪いとことがあります。

(田中委員)

地下に杭が埋まっているというのは、刑務所時代のものですか。

(事務局 草分)

現在の建物の杭になります。

(中島推進監)

ベントと言って、そのまま掘って鉄筋を入れて打つ。鉄筋コンクリートの柱みたいなものが入っています。大きなものが入っています。

(田中委員)

あそこは基礎をかなり打ち込まないといけなさそうですね。

(中島推進監)

設計書を見ていないのでメーターまではわかりませんが、ベント杭を打ったということは聞いています。

杭を残さないのが一般的でしたが、使った方が経済的なので、使うようなやり方を研究しているところではという考え方が出てきています。街中の建て替えは、地下部分を残しているところが多いです。その中に建てています。そうじゃないと、道路に影響が出ますから。個人的には、地下構造物を残してやった方が合理的だと思います。苦勞して埋めて、また掘ることはない。どちらの選択もありますが。

(川内委員)

静岡以外の大きな公共施設の建て替え計画と補完関係ということはあるですか。

(中島推進監)

改修計画とは練っています。例えば、グランシップと同時に建ててしまうのは困るので、そこははずさなければならぬとか。

(川内委員)

舞台機構とか静岡県内で、例えば、ここの舞台はライオンキングができないとか、ここならできるか、両方ができるというようにする必要はなくて、そういう意味でお金を節約できる個性づくりとか機能の補完的なものを県内の他の文化施設とするということはあるですか。

(田中委員)

行政体が違うから難しいかもしれません。

(川内委員)

全部の自治体と同じような平均的なものをもつよりはいいのかと。ここはライオンキングはできないけど、室内楽ができるというように、市民文化会館の客のエリアの設定もあると思います。静岡県全体をカバーできればいいという話ではないと思いますが、ちょっと足を伸ばせばほしいのものができるといってもいいかなと。

(中島推進監)

一番気にしなければいけないのが2,000席というところです。2,000席のホールは周辺にはありません。アクトホールまで行かないとなりません。だから2,000席にこだわっています。ジャンルでこだわるということもあり、巨大なシューボックス型の音響のいいホールを作った話もあります。ちなみに、ライオンキングとかあの手のものは、ほぼ関係ないです。なぜかという、全部持ち込めます。この間、オペラ座の怪人をご覧になった方はわかるかもしれませんが、自分たちでフレームを持っています。シャンデリアも昔は直接吊っていましたが、今はどこでもできるようにフレームを入れてその下にシャンデリアを吊っています。あのようなものは寛容性がある割とどこでもできるし、劇団四季のキャパは1,200~1,300人というところが標準的です。彼らは開催地は選びますが、ホールはそんなに選ばないです。

(川内委員)

若干の演出変更をやればいいんですかね。

(中島推進監)

たぶん、間口と観客席で決まります。音響もすべて持ち込みですので。もちろん、吊りものなど基本的なものは必要ですが。商業ベースの演劇はその傾向にあります。その辺もにらんでやらないと、余分なものを入れてしまうことになります。

(田中委員)

近隣ですと、富士のロゼシアターの改修があります。

(中島推進監)

一番近いところだと、焼津ですかね。

(田中委員)

焼津の建て替えはありますか。

(中島推進監)

まだ大丈夫だと思います。演目が面白いものを入れていきますね。

(久保田委員)

ウィーンなどの古い建物は建て替えの話が出てこないと思うのですが、シドニーのオペラハウスは鉄筋でできているので、どこかで建て替えの議論が出てくるのではと思います。日本は改修するとあと40年と出てきます。今、市民文化会館が40年経ったところで改修すれば40年、しなければあと20年ということでしょうか。もう少し短いですか。

(中島推進監)

いろんな設定でコンクリートの設計物は60年という設定をしていた時が多いです。

(久保田委員)

うちのビルもそうですが、実際に設計強度やコンクリートが何年間で崩れるかということが証明されていない部分があります。日本の建物はそういった議論をしていいのかと思う気もあります。要するにレジェンド化しないということです。また新しいものにしてしまうということで、40年間で市民文化会館はこういうものが行われて、それがレジェンドになったということがあってしかるべきではないかと思います。こんな人が来たとかというように。その人たちが素晴らしい音楽を奏でていた場所ですということがあまりなく、ただコンクリートの箱のような状態でずっと使ってきたというように思

います。ウィーンとかは、そういったものを大事にしているので、市民も大事にしていると思います。実際は、なかなかボロボロで大変かもしれないとは思いますが。

(中島推進監)

ボロボロな部分が設備の話ですね。

(田中委員)

躯体そのものはもつとは思いますが。

(中島推進監)

今はコアを抜いて強度を測っています。

改修するなら、プラス 20 年の設計をしなければならないという話をしています。

(川内委員)

国内では、そういうウィーンの建物に似たような歴史的で現役の施設はありますか。

(田中委員)

そういったものはないのではないのでしょうか。日本は天災が多いということもありますが、建築の考え方かもしれませぬ。戦前の建物は残ってないわけではありませんが、あの当時の建物はいいですね。

(川内委員)

一般家屋にしても、西洋の影響があるのでしょうか。

(田中委員)

実用的かと言われるとどうかということもありますが、西洋は壊さないですね。

(久保田委員)

死んでいないということが大きいです。地震がないということが大きいのでしょうか。地震があつて、これは危ないだろうという話が出てくるとすべて飛んでしまいます。その部分がどうしても残せないというか、残す方向がいいのではなく新しくしようという話になっていると思います。

(川内委員)

ウィーンですと、街に文化があるからそのような伝統的なものを残してあつたり、演目であるとか。オペラハウスでも「おらの町の」という意識がとても強い中で残してあると思います。

(田中委員)

パリのオペラ座は、昔オペラをやっていましたが、今はやっていません。シャガールが描いた大きな天井がありますが、今は他の舞台芸術に使ったりして、そのように使い続けています。

(川内委員)

中の演目というか伝統なのか、例えば、つま恋は箱物ではないが多くの聖地として残り続けているのは、いろんな人を呼んだりすることで聖地化したと思います。聖地になるためには躯体もそうですが、中の出し物の継続性も合った話かと思います。

躯体はずっと伝えていき、中だけは最新鋭のものを抱えていくことでウィーンやパリなどでうまくいっているのではないのでしょうか。

(田中委員)

大阪の中之島にある建築物は財閥の寄付が多いですが、今でも使っています。すばらしい建物です。市役所を建て替えましたが、裏の公会堂は現役で使っています。

(事務局 草分)

うちの庁舎も県庁も現役です。

(中島推進監)

昭和9年です。

(川内委員)

文化会館は外観の意匠的な特徴で何か言われているものはありますか。

(中島推進監)

すごく真面目な設計だと思います。ただ、その当時珍しかったアルキャストという列柱を並べています。目立たないが劇場建築らしいです。あの手の建設は、オーソドックスな劇場建築です。

(川内委員)

そういうのがあれば継続していくのは大事なかなと思います。

(中島推進監)

日本で近代建築の価値を見直そうという考え方が出てきています。京都のロームシアターがまさにそうですが、著名な建築家のものは壊すべきではない。例えば、四国に行けば丹下健三さんの建築は残そうということです。逆に言うと、そこまで愛着が出るまで、中身の話も含めて改修で行くのであれば使っていて、やっぱりいい建物だなとしていくしかないかなと思います。その後40年と言いますが、もう一度改修ということもあり得るかもしれません。コンクリートの強度はあるところまで下がっていきませんが、設計強度はもっと先なので中性化というかアルカリ性でなくなるのが問題です。しかも鉄

筋が錆びなければもちます。

(久保田委員)

私のビルもだいぶ古くて昭和 38 年頃のビルですが、コア抜きして調べたら問題はありませんでした。かえって強度を増しているようでした。

(中島推進監)

あるところまでずっと上がっていきます。

(久保田委員)

そういう部分があります。でも、あと何十年もちます、新築すると 60 年もちますと書いてあったりすると、そこが気になったりします。

(中島推進監)

迷ったのですが、正直にそれは言わなければいけないと思って書きました。もう少し頑張れるかなとも思いますが、そういうのは少なめに書きます。

(平野会長)

今は、橋や高速道路もそうですね。こちらは長くは存続させられないとは思いますが。

(川内委員)

久保田さんの話ではありませんが、永続的にできないのかと思います。

(事務局 草分)

今やっているアセットマネジメントは、まさに間に手を入れていけば永続的にいけるのではないかと考えてはいます。

(中島推進監)

今、学校は耐震補強をして 80 年使おうとしています。何となく 80 年がスタンダードになってきています。皮算用にはなりますが。結果的に学校は 100 年使うことになると思います。

(平野会長)

120 億から 130 億ですか。数字だけで踊らされてはいけませんが、ちなみにフェルメールの真珠の耳飾りの少女は 150 億です。最近、コンビニのコーヒーが 200 億かけていたようです。

(川内委員)

市民文化会館の展示の部分はどんな感じですか。文化会館で素晴らしい展示というのはありました

か。パフォーマンスではなくて。お金をしっかりとってやるためのものではないということですか。

(田中委員)

貸してくれる要件に満たないです。

(中島推進監)

単独施設ではないということと、空調関係、セキュリティなど最初から設計していけば可能性があるかもしれませんが。

(川内委員)

静岡市美術館があるから、そこは分担しているということですね。

(河村委員)

音響など最低限の設備のレベルというのは、予算の関係だったり、どのくらいの休館期間があったりということに直結するので、ある意味プロ目線とそれに造詣の深い人選で綿密に練っていく必要があると思います。私は文化振興審議会の委員をやってみたいと思って応募した理由の1つですが、文化はやっている人とやっていない人がいて、能動的か全く関心がないという人がいて、それが他のものに比べて差が大きいと思っていました。例えば、お祭りだったら興味関心はないけど行ってみようとか、サッカーもJリーグは見ないけど、ワールドカップは見ようとか。それこそラグビーのにわかファンだったりとか。他のジャンルでは結構簡単に参加したりすることがあると思いますが、ちょっと楽器やってみようとか、絵を描いてみようかというのはなかなかなくて、そこをどうやってクオリティを上げるのとする野を広げるということを両立させるためにはどのように計画し考えていくか、そういうところを見てみたいと思ったのが1つでした。そうすると、市民文化会館の計画の中には、設備というところには専門的な目が必要であり、広場には無関心層ということ。川内委員の印象に残った言葉ですが、「用もないのに行きたくなる」という言葉はいいなと思いました。確かに今の広場を外から見たとき、きれいですが少し冷たい気がします。子どもを連れて遊ばせようと思わないです。もちろん、そういう空間設計をされたのかとは思いますが、ただ、二の丸三の丸という考え方もあって一体的に整備するとき、異空間というものを意図的に作り出すということもあるかもしれませんが、無関心層を少しでも新しい施設に近づけたいと考えます。ここに書いてあるような音楽のイベントを外でやったり、建物の魅力だったり、あとはトイレも問題ないとか、防災機能の面でも逃げられる場所があるとか。無関心層の訴えかけるようなものを予算をかけない形で、そういう概念を計画の中に盛り込んでいってほしいと思います。

(中島推進監)

常葉の先生に「うちの学生が行くところが何もない」と言われました。あそこに行けるといいなという要素が確かにあります。ドーナツ型の「記憶の風景-C」というのがありますが、子どもはあれに乗って遊んでいます。そういう仕掛けがあると人は来ると感じています。端的に、あれ1つで子どもは来

ます。気持ちよさそうだから来るのだと思います。乗ってみたい、滑ってみたいと思うのでしょうかね。

それと、音楽のプログラムを学校に届けるということをやっていますが、それが音楽の入口になります。SPACもやっていますし、アウトリーチや空間の使い方で。我々がリサーチしている関係者の中には、そういう場所に来ない人というのも入っています。そういった人も重要であり、お客様という意識でやっています。

(中村委員)

5ページにあった再整備イメージですが、イメージを見ると、やっぱりきれいだなとか行ってみたいと思う反面、演目がいいものであるとか興味を引くものがないとなかなか行かないのではとも思いました。そうすると、あんなに綺麗なものを作ったのにと感じてしまうかもしれません。創造的人づくり、魅力づくり、にぎわいづくりとありますが、これは回っていると思います。先ほどの、用もないのに行きたくなるということで、私だったらどこだろうと思いました。人が行っているから私も行ってみようかなとか、学校にオーケストラが来たり、劇場の案内がきたから行ってみた。行ってみたら楽しくて、それを教えてもらえるサポート講座があったら行ってみようとか、ぐるぐる回っていると思います。イメージ画像がとてもきれいです。今までのものと比較しても両方いいとは思いますが。今の施設のあの広場ですが、夏だったら日影が無いからどこで休もうとか、そういうところを思うと。用もないのに行きたくはなりますが、そこに長く入れるかということが充実されたら、いろんな年代や子ども、障害のある方が来やすい場所になるかもしれないと思いました。

(平野会長)

積極的に用もないのに行きたくなるということですね。

(中島推進監)

子どもが泣いてもいいコンサートというのが最近増えてきました。そういうコンテンツの話と、居心地がいい場所ということが必要です。

(平野会長)

何かそこに居心地がいいような何か、偶然の学びであったり、人と人が接するチャンスがあったりというのが用もないのに行きたくなるということにつながります。

(中村委員)

今日、用宗の海浜公園に行ってきたのですが、練習場所を探している人が結構いるということを感じました。アメリカンドラムでしょうか。また、友達でオーケストラを100人規模でやっていますが、パート練習をする場所が無くいろんなところを渡り歩いていると聞きました。

(中島推進監)

小部屋で防音の効いた部屋が必要ですね。

(平野会長)

解放的なところでやりたいと思っても、東静岡駅の前ではねと思います。
是永委員はいかがでしょう。

(是永委員)

私は、文化というものは人間の営みすべてと思っています。これが文化だ、これは文化ではないというものではないと思っています。こういう表で見ると、パーセンテージはもっと上ではないかと思っています。限定しているから、こういう数値なんだと思っています。

(平野会長)

ありがとうございました。
それでは、これで事務局の方にお返しします。

(事務局 草分)

皆様ありがとうございました。今回の事で何かお気づきの点がありましたら事務局へご連絡いただければと思います。

市民文化会館に関する議論は、次年度も含めて継続してやっていかなければならないと思いますので、またよろしく申し上げます。本年度ですが、次回の第4回は2月3日(月)に予定しております。また近くになりましたらご案内をさせていただきますのでよろしくお願いします。

ここでご報告ですが、静岡市は、毎年様々な功労があった方に功労賞を差し上げていますが、是永委員が静岡市の文化の分野でご尽力いただいたということで、市長から表彰を受けることになりました。文化の分野では、しばらく表彰を受けてもらう方がいなかったのも、久々の受賞となりました。おめでとうございます。

それでは、以上を持ちまして令和元年度の第3回文化振興会議を終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。